

# 「SIM熊本2030」とは

平成26年10月25日 熊本大学政経研公共政策コンペ  
対話型シミュレーションゲーム「SIM熊本2030」を活用したまちづくりのカタチづくり  
チーム名：くもとSMILEネット

**【2030年問題】**

戦後に生まれた団塊の世代が高齢化し、2025年頃から75歳以上の後期高齢者世代に突入し始める。日本の人口構成も、図1のようにピラミッドの上層部分が大きくなり、2030年には、3人に1人が65歳以上の高齢者と言われるほど、高齢者率の上昇が予想されている。

**【限りある財源】**

人口減による税収減、高齢化による社会保障費増。これまで「あれも、これも」と様々な政策を実施していたが、これから「あれか、これか」の選択を迫られる時代となる。

**【様々な対立】**

選択の過程で、様々な対立が生じてくる。

高齢者区若者  
都市山間部

**【対話が苦手】**

大事なことが分かって、対立を伴うような対話は苦手である。多様な問題を自分のこととして捉え、参加することが大事だと思ってもハードルが高い。

**リアルに「体験」**    **「体験」を共有**    **● 道の「ハードル」を下げる**

今後起こる地域の課題をシミュレーションし、何が起るかを体験しながら、選択の過程で生じる対立に寄り添える体験を「ゲームシミュレーション」を通じて、これらの現状（総論）を解決し、様々な地域、様々な立場が一体となったまちづくりを行う場を創り上げる。

**対話型シミュレーションゲーム**

**【ゲーム説明】**

高齢化による社会保障に必要な予算が増え続けるなか、何の予算を落とす、何の予算を残していくか。そして、残した予算、事業でいかに幸せな街を作っていくか。プレイヤーは1組で架空都市ウツナマ市の部長に就任し、2030年までの五年ごとに迫る課題に対して、他の部長と対話し、「市としての判断」を下していく。

① 各部長には予算と1枚1億円規模の事業カードが配られる。

② 迫りくる時間制限の中で、限りある財源をどう扱うか。どんな選択を行い、どの事業を廃止するか。どういった影響が生じて、どう対応するか。事業カードを具体的にどう運用するか。

**【事業カード例】**

企画部：IT行政の推進事業、まちづくり（地域づくり）補助金  
健康部：子どもの医療費補助事業、健康づくり支援事業  
工務部：企業誘致補助金、ゆるキャラ活動委託費、道路拡充のイベント事業  
福祉部：高齢者見守り事業、産後ケア支援事業  
土木部：歩道の拡充事業、防災対策事業、重点産業振興事業  
総務部：（※重要な財源は多く、廃止合議の議論を招くことが想定。）

■ 各部の予算はほとんどが義務的経費であり、裁量のある予算は各課2〜3億円（専断カードの枚数）のみ。  
■ 人口減少に伴って専断収入も人口減少し、約減は5年ごとに1億円ずつ発生。  
■ 反対に、高齢化の進行に伴い、社会保障経費は5年ごとに1億円ずつ増加する。

■ 実まってきた課題に対して、他の部長と対話し、「市としての判断」を決めなければならない。  
■ 予算が足りなくなると、事業カードの枚数を減らさなければならない。  
■ 部長自身の所属する事業カードの具体的な運用方針（カードの仕組みや内容）を決めることができる。

③ 裁量となるのは各部5〜40億円の予算と、1枚1億円の事業カード。そしてチームの知識と知恵と協力。あとは決断をくだす勇氣。時々と選手権の時間を前に、部長推薦は出来る。時代が迫るといった事業カードは複数枚のカードを持つ。制限時間内に「市としての判断」及び「支出予算案の決定」、「それに伴う審議への対応案の説明」が可能なれば、住居の反応を踏まえ、その費用負担は赤字債（借金）で対応すること。そのペナルティが総額5億円に達した場合は、財政破綻（ゲームオーバー）となる。逃げの事はもちろん出来ない。基本的には、借入を増やす手段がなく、ひたすら事業を落とすしかない。総論、総論する際にもある厳しい状況の中、と気づくものがある。さて、あなたの市は、どんな選択をして、どんな街を目指していきますか？

**【制作者として気づいたこと／参加者に気づいてほしいこと】**

- 多様性（他人の意見や幸せのカタチ）を認めることで、未来の幅が広がる。
- 未来を悲観することはない、残ったものが増えることに気づくことができれば、その強みを自分たちの地域の武器にできる。
- そこから迫り来る社会の変化を知り、変化に向き合っていくことで未来をリードできる。

**【明るい未来を創るための提言】**

- 過去に起こったことが今につながっていて、今の選択が未来につながっている認識が必要である。  
⇒「すでに起こった未来」と「これから創っていく未来」を分けて考えよう。
- 多様性をもたすため、行政だけでなく多くの県民と対話して未来を考える必要がある。  
⇒参加のハードルを下げ、ワークショップ開催して考えよう。
- 肩書は限られており「対立」は避けられない。  
共通認識と相互理解が必要である。  
⇒「SIM熊本2030」を活用して、楽しく「対話」をしよう。「対立」は「対話」で乗り越えられる！

**【対話の広がり】**

平成26年8月 熊本県庁のシンクタンク「政策推進室」を活用して対話開始  
平成26年9月 熊本県庁で第1回開催（32名参加）  
平成26年10月 上益城郡御代田町（熊本市外）で第2回開催（10名参加）  
平成26年11月 九十九町（熊本市外）で第3回開催（50名参加）  
平成26年12月 熊本市市庁（熊本市）で第4回開催（35名参加）  
平成27年1月 熊本市市庁で第5回開催（10名参加）  
平成27年2月 熊本市市庁で第6回開催（10名参加）  
平成27年3月 熊本市市庁で第7回開催（10名参加）  
平成27年4月 熊本市市庁で第8回開催（10名参加）  
平成27年5月 熊本市市庁で第9回開催（10名参加）  
平成27年6月 熊本市市庁で第10回開催（10名参加）  
平成27年7月 熊本市市庁で第11回開催（10名参加）  
平成27年8月 熊本市市庁で第12回開催（10名参加）  
平成27年9月 熊本市市庁で第13回開催（10名参加）  
平成27年10月 熊本市市庁で第14回開催（10名参加）  
平成27年11月 熊本市市庁で第15回開催（10名参加）  
平成27年12月 熊本市市庁で第16回開催（10名参加）  
平成28年1月 熊本市市庁で第17回開催（10名参加）  
平成28年2月 熊本市市庁で第18回開催（10名参加）  
平成28年3月 熊本市市庁で第19回開催（10名参加）  
平成28年4月 熊本市市庁で第20回開催（10名参加）  
平成28年5月 熊本市市庁で第21回開催（10名参加）  
平成28年6月 熊本市市庁で第22回開催（10名参加）  
平成28年7月 熊本市市庁で第23回開催（10名参加）  
平成28年8月 熊本市市庁で第24回開催（10名参加）  
平成28年9月 熊本市市庁で第25回開催（10名参加）  
平成28年10月 熊本市市庁で第26回開催（10名参加）  
平成28年11月 熊本市市庁で第27回開催（10名参加）  
平成28年12月 熊本市市庁で第28回開催（10名参加）  
平成29年1月 熊本市市庁で第29回開催（10名参加）  
平成29年2月 熊本市市庁で第30回開催（10名参加）  
平成29年3月 熊本市市庁で第31回開催（10名参加）  
平成29年4月 熊本市市庁で第32回開催（10名参加）  
平成29年5月 熊本市市庁で第33回開催（10名参加）  
平成29年6月 熊本市市庁で第34回開催（10名参加）  
平成29年7月 熊本市市庁で第35回開催（10名参加）  
平成29年8月 熊本市市庁で第36回開催（10名参加）  
平成29年9月 熊本市市庁で第37回開催（10名参加）  
平成29年10月 熊本市市庁で第38回開催（10名参加）  
平成29年11月 熊本市市庁で第39回開催（10名参加）  
平成29年12月 熊本市市庁で第40回開催（10名参加）  
平成30年1月 熊本市市庁で第41回開催（10名参加）  
平成30年2月 熊本市市庁で第42回開催（10名参加）  
平成30年3月 熊本市市庁で第43回開催（10名参加）  
平成30年4月 熊本市市庁で第44回開催（10名参加）  
平成30年5月 熊本市市庁で第45回開催（10名参加）  
平成30年6月 熊本市市庁で第46回開催（10名参加）  
平成30年7月 熊本市市庁で第47回開催（10名参加）  
平成30年8月 熊本市市庁で第48回開催（10名参加）  
平成30年9月 熊本市市庁で第49回開催（10名参加）  
平成30年10月 熊本市市庁で第50回開催（10名参加）  
平成30年11月 熊本市市庁で第51回開催（10名参加）  
平成30年12月 熊本市市庁で第52回開催（10名参加）  
平成31年1月 熊本市市庁で第53回開催（10名参加）  
平成31年2月 熊本市市庁で第54回開催（10名参加）  
平成31年3月 熊本市市庁で第55回開催（10名参加）  
平成31年4月 熊本市市庁で第56回開催（10名参加）  
平成31年5月 熊本市市庁で第57回開催（10名参加）  
平成31年6月 熊本市市庁で第58回開催（10名参加）  
平成31年7月 熊本市市庁で第59回開催（10名参加）  
平成31年8月 熊本市市庁で第60回開催（10名参加）  
平成31年9月 熊本市市庁で第61回開催（10名参加）  
平成31年10月 熊本市市庁で第62回開催（10名参加）  
平成31年11月 熊本市市庁で第63回開催（10名参加）  
平成31年12月 熊本市市庁で第64回開催（10名参加）  
平成32年1月 熊本市市庁で第65回開催（10名参加）  
平成32年2月 熊本市市庁で第66回開催（10名参加）  
平成32年3月 熊本市市庁で第67回開催（10名参加）  
平成32年4月 熊本市市庁で第68回開催（10名参加）  
平成32年5月 熊本市市庁で第69回開催（10名参加）  
平成32年6月 熊本市市庁で第70回開催（10名参加）  
平成32年7月 熊本市市庁で第71回開催（10名参加）  
平成32年8月 熊本市市庁で第72回開催（10名参加）  
平成32年9月 熊本市市庁で第73回開催（10名参加）  
平成32年10月 熊本市市庁で第74回開催（10名参加）  
平成32年11月 熊本市市庁で第75回開催（10名参加）  
平成32年12月 熊本市市庁で第76回開催（10名参加）  
平成33年1月 熊本市市庁で第77回開催（10名参加）  
平成33年2月 熊本市市庁で第78回開催（10名参加）  
平成33年3月 熊本市市庁で第79回開催（10名参加）  
平成33年4月 熊本市市庁で第80回開催（10名参加）  
平成33年5月 熊本市市庁で第81回開催（10名参加）  
平成33年6月 熊本市市庁で第82回開催（10名参加）  
平成33年7月 熊本市市庁で第83回開催（10名参加）  
平成33年8月 熊本市市庁で第84回開催（10名参加）  
平成33年9月 熊本市市庁で第85回開催（10名参加）  
平成33年10月 熊本市市庁で第86回開催（10名参加）  
平成33年11月 熊本市市庁で第87回開催（10名参加）  
平成33年12月 熊本市市庁で第88回開催（10名参加）  
平成34年1月 熊本市市庁で第89回開催（10名参加）  
平成34年2月 熊本市市庁で第90回開催（10名参加）  
平成34年3月 熊本市市庁で第91回開催（10名参加）  
平成34年4月 熊本市市庁で第92回開催（10名参加）  
平成34年5月 熊本市市庁で第93回開催（10名参加）  
平成34年6月 熊本市市庁で第94回開催（10名参加）  
平成34年7月 熊本市市庁で第95回開催（10名参加）  
平成34年8月 熊本市市庁で第96回開催（10名参加）  
平成34年9月 熊本市市庁で第97回開催（10名参加）  
平成34年10月 熊本市市庁で第98回開催（10名参加）  
平成34年11月 熊本市市庁で第99回開催（10名参加）  
平成34年12月 熊本市市庁で第100回開催（10名参加）

一般向けのライターも制作中！

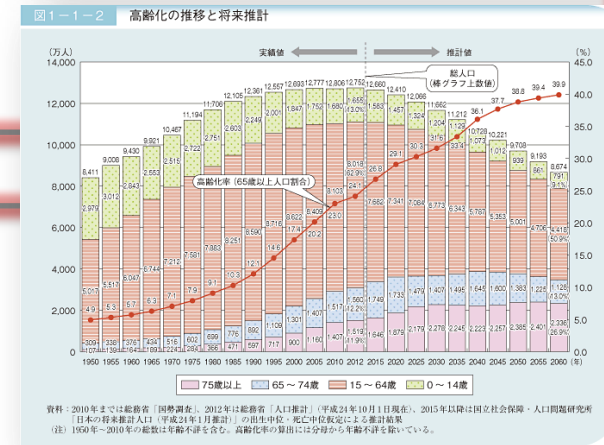
- 熊本県庁職員の自主活動グループ「くもとSMILEネット」が平成25年8月から約5ヵ月で自主開発した、2030年問題を体感する「対話型自治体経営シミュレーションゲーム」。
- 今後直面する課題について、対話の中で解決策・方向性を導き出していくものであり、自治体職員・まちづくり関係者等の間でSIMファンが増加中。



ゲームの様子

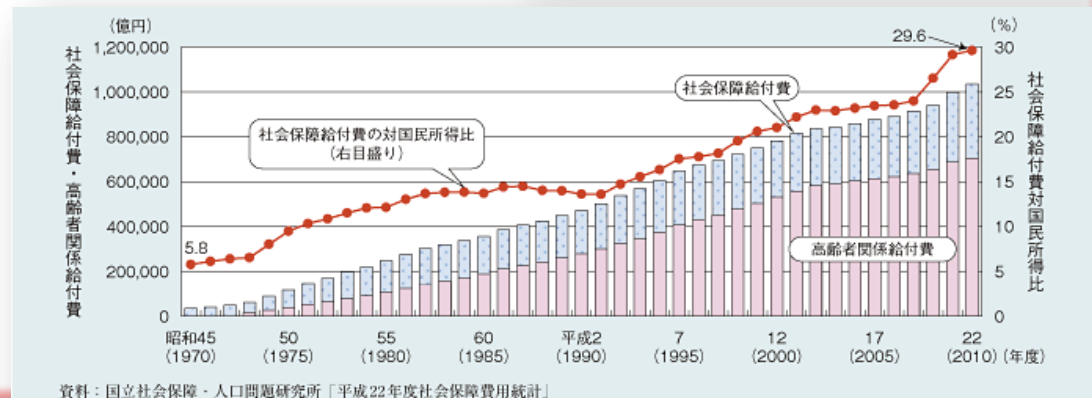
# 【2030年問題】

**戦**後に生まれた団塊の世代が**高齢化**し、2025年頃から75歳以上の後期高齢者世代に突入し始める。日本の人口構成も、図1のようにピラミッドの上層部分が大きくなり、2030年には、3人に1人が65歳以上の高齢者と言われるほど、高齢者率の上昇が予想されている。



# 【限りある財源】

**人**口減による**税収減**、高齢化による**社会保障費増**。これまで「あれも、これも」と様々な政策を実施していたが、これから「あれか、これか」の選択を迫られる時代となる。





## 【様々な対立】

**選**択の過程で、様々な**対立**が生じてくる。



高齢者 × 若者



都市 × 山間部

## 【対話が苦手】



**大**事なことと分かってても、対立を伴うような**対話**は苦手である。多様な問題を自分のこととして捉え、参加することが大事だと思っ  
てもハードルが高い。

今後起こりうる地域の課題をシミュレーションし、何が起きるかを**体感**しながら、選択の過程で生じる対立を**対話**により乗り越える体験を「ゲーミフィケーション（＝ゲーム化）」することで、これらの現状（隘路）を解決し、様々な世代、様々な地域、多様な立場が一体となったまちづくりを行う“場”を創り上げる。

リアルに“体感”

“体験”を共有

参加の“ハードル”を下げる

対話型シミュレーションゲーム

SIN熊本2030

新たなつながり ～Lead The Next Society～

# 【ゲーム説明】

高齢化により社会保障に必要な予算が増え続けるなか、何の予算を落とし、何の予算を残していくか。そして、残された予算・事業でいかに幸せな街を作っていくか。

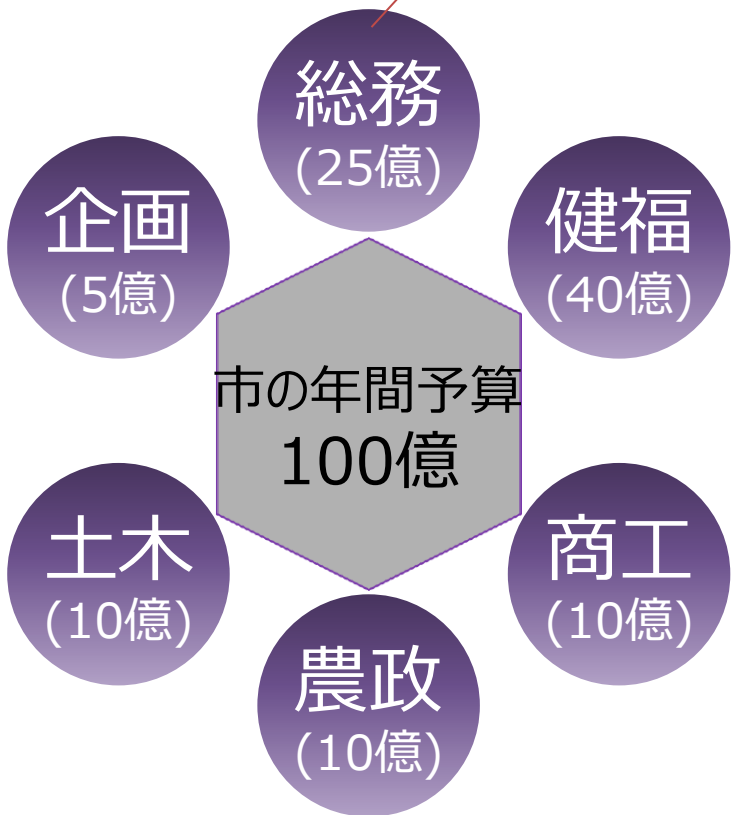
プレイヤーは6人1組で架空都市〇〇市の部長に就任し、2030年までの5年ごとに迫りくる課題に対して、他の部長と対話し、「市としての判断」を下していく。





# ①各部長には予算と1枚1億円規模の事業カードが配られる。

(うち公債費15億円)



## 【事業カード例】

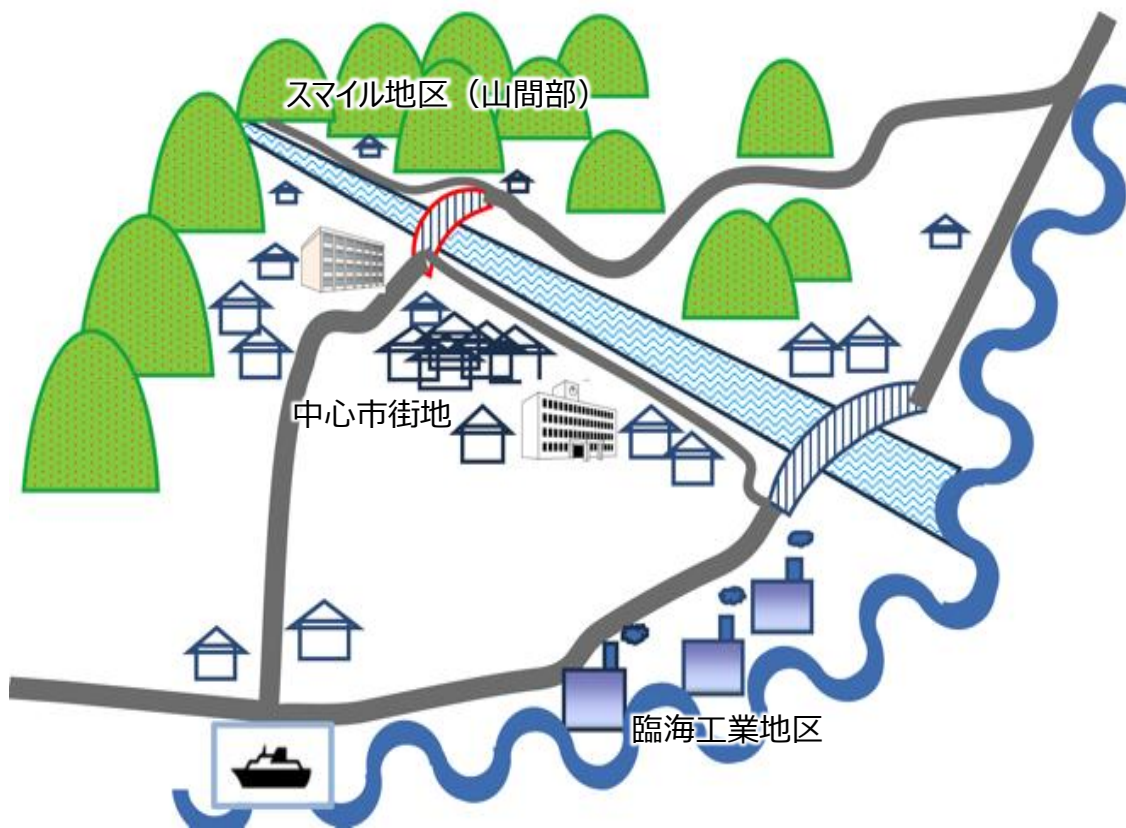
- 企画部：IT行政の推進事業、まちづくり（地域づくり）補助金
- 健福部：子ども医療費補助事業、健康づくり支援事業
- 商工部：企業誘致補助金、ゆるキャラ活動委託費、販路拡大のイベント事業
- 農政部：有害鳥獣対策事業、農業担い手育成事業、新品種開発の補助事業
- 土木部：歩道バリアフリー事業、防災対策事業、重点港湾整備事業
- 総務部：（※裁量的経費はなく、部長会議の調整役を担ってもらう設定。）

② 迫りくる時間制限の中で、限りある財源をどう扱うか。どんな選択を行い、どの事業を廃止するか。どういった影響が生じて、どう対応するか。事業カードを具体的にどう運用するか。

Q. 中山間に通じる橋の更新時期が到来。  
当該道路は集落につながる大事な生命線であり要望も大きい。  
補修費は1億円。  
さて、どうする？



A. 補修する    B. 補修しない



③武器となるのは各部 5 ～ 4 0 億円の予算と、1 枚 1 億円の事業カード、そしてチームの知識と知恵と協力と、あとは決断をくだす勇氣。

刻々と進み続ける時計を前に、悠長な議論は出来ず、時代が進むにつれて事業カードは容赦なく減り続ける。

制限時間内に「市としての判断」及び「捻出元事業の決定」、「それに伴う影響への対応策の説明」ができれば、住民の反発を招き、その費用負担は赤字債（借金）で対応することとし、そのペナルティが総額 5 億円に達した場合は、財政破綻（ゲームオーバー）となる。逃げる事はもう出来ない。基本的に、歳入を増やす手だてが無く、ひたすら事業を落とし続けるのみ。終盤、絶望すら感じることもある厳しい状況の中、ふと気づくものがある。さて、あなたの市は、どんな選択をして、どんな街を目指していきますか？



# 未来を2つに分けてゲームに組み込む

## すでに起こった未来

### 前提条件

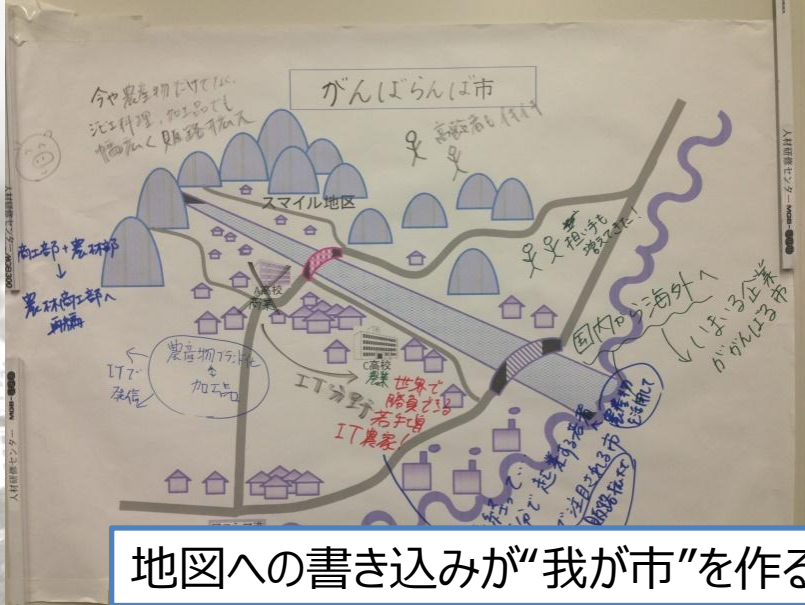
- 各部の予算はほとんどが義務的経費であり、  
裁量のある経費は各部 2 ~ 3 億円（事業カードの枚数）のみ。
- 人口減少により労働力人口・消費者人口も減少し、  
税金は 5 年ごとに 1 億円ずつ下がる。
- 反対に、高齢化の進行により、  
社会保障経費は 5 年ごとに 1 億円ずつ増加する。

## これから創る未来

### 選択肢

- 突きつけられた課題に対して、  
他の部長と対話し、「市としての判断」を決めなければならない。
- 減り続ける財源に対応するため、  
事業カードのどれかを廃止して、財源を確保しなければならない。
- 部長は自らの所管する事業カードの具体的な運用方針 （カードの詳細な内容） を決めることができる。

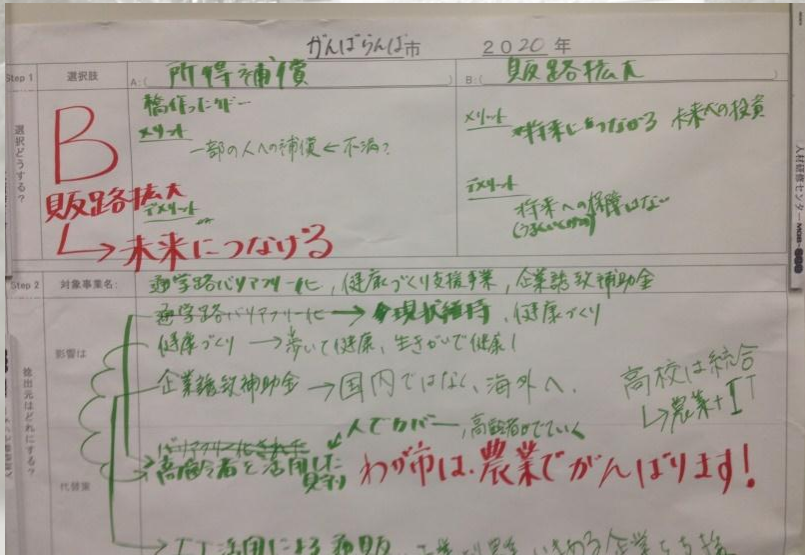
# 【開催例】第3回九州まちづくりOM“九州交流カフェ” in 熊本



地図への書き込みが“我が市”を作る



異なる自治体の職員が一緒にまちづくりを考える



議論の内容を模造紙に記録し見える化

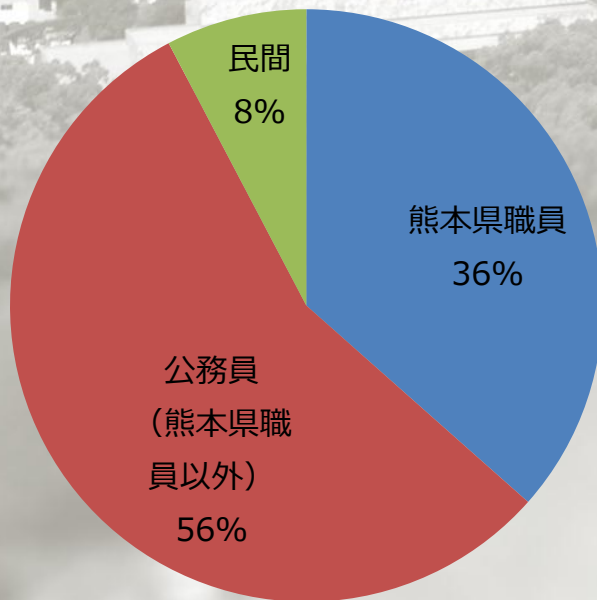


打ち解けるための“おやつ”と“遊び心”

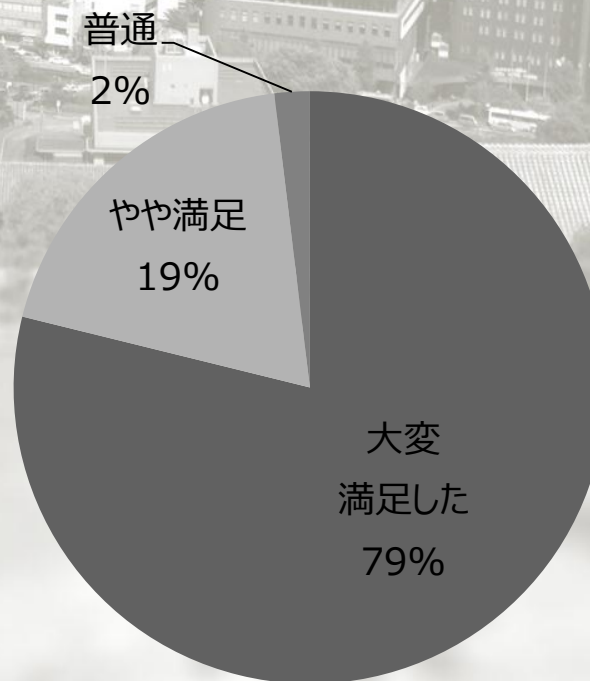
# 参加後の感想（満足度）

区分	回答者数	5	4	3	2	1	平均点
		大変満足した	やや満足	普通	やや不満	不満	
1 熊本県職員	19	11	8	0	0	0	4.58
2 公務員（熊本県職員以外）	29	27	2	0	0	0	4.93
3 民間	4	3	0	1	0	0	4.50
<b>全体</b>	<b>52</b>	<b>41</b>	<b>10</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>4.77</b>

参加者比率

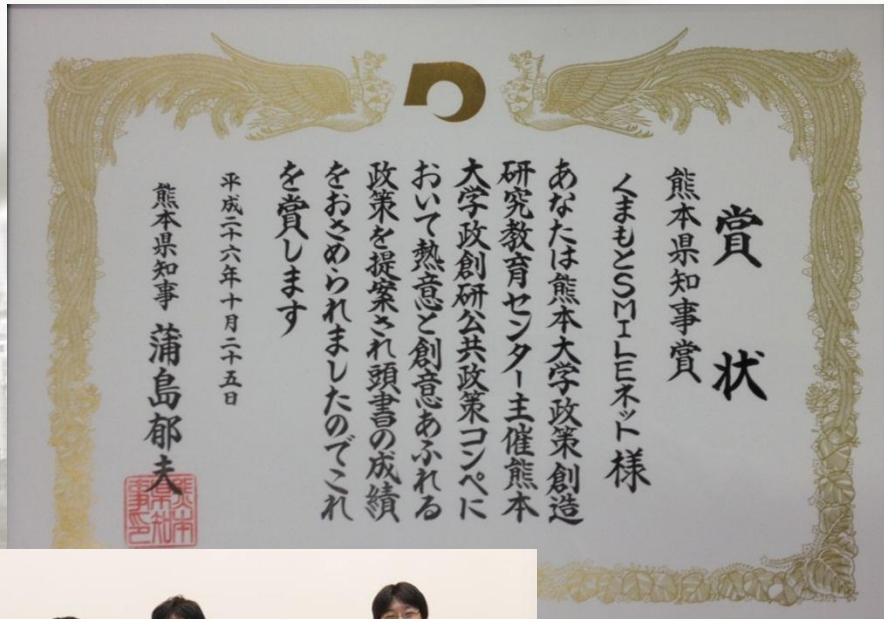


満足度（全体）





# 反響



平成26年10月25日  
熊本大学政策創造研究教育センター  
公共政策コンペで熊本県知事賞受賞

月刊ガバンス  
(2015年9月号) に  
PickUp記事として掲載



# 対話の広がり

- 平成25年 8月 熊本県庁の自主活動支援制度を活用して制作開始。5ヵ月間で開発。
- 平成26年 1月 熊本県庁で県職員・県内市町村職員向けに第1回開催（32名参加）
- 平成26年 2月 上益城地域振興局（管内市町村勉強会）で開催（10名参加）
- 平成26年 8月 九州オフサイトミーティングin熊本で開催（50名参加）
- 平成26年 8月 諫早市役所（長崎）で開催（35参加）
- 平成26年10月 熊本県で庁内外の希望者向け体験会を開催（10組織から24名参加）
- 平成26年11月 福岡市役所が体験会を開催（12名参加）
- 熊本の市民大学マチナカレッジで一般向け講座として開催（30名参加）
- 平成27年 1月 熊本市役所で開催（18名参加）、人吉市役所で開催（10名参加）
- 平成27年 2月 諫早市役所で年齢別・役職別のチーム編成で開催（12名参加）
- 平成27年 4月 福岡市役所の新人研修の1コマとして簡易版を実施（300名参加）
- 熊本県で庁内外の希望者向け体験会を開催（6組織から20名参加）
- 平成27年 6月 水俣市役所で開催（11名参加）
- 平成27年 7月 福岡県庁×春日市で共同開催（29名参加）
- 大津町(熊本)で青年会議所主催のカスタマイズ版を開催（20名参加）
- 平成27年 8月 「SIM熊本2030体験会IN関東」を開催（44名参加）
- 「財政出前講座×SIM」のコラボ版を延岡市で開催（50名参加）

H26.8.9 SIM熊本2030 IN 九州OM



H27.8.1 SIM体験会 IN 関東





# 「くまもとSMILEネット」

「県職員のミッションは県民を笑顔にすること」  
「まずは、自分たち県職員が笑顔になること  
で、県民に笑顔（元気）を届ける存在に  
なろう！」  
「そのために、自分たちで1歩を踏み出そう！」  
と平成22年9月に職員有志で結成した自主  
活動グループ。

現在45人程度のメンバーが参加。

定期的なダイアログ（対話）を通じて、年始  
のハイタッチ、退職予定者とのワールドカフェ  
（暗黙知の伝承）、採用PRムービー制作な  
ど様々な場づくり、プロジェクトを展開中。

